

続・ふるさと

おおき 青木の観腸先生②

― 酒井良清物語 ―

昭和24年の社会教育法の施行を受け、南高根沢村では役場内に公民館を併設した。黒崎正美村長を公民館長に、厚生課職員を公民館職員兼務とし、翌年1月1日には、村の広報紙を兼ねた公民館広報紙「わが村のあゆみ」を創刊した。

石川伊重郎南高根沢中学校長が、酒井先生に非常勤の公民館長になつてくれるよう説得にあつた。内科小児科医としての外来や夜遅くまでの往診、民生委員活動で多忙を極めていた酒井先生は、なかなか首を縦に振らなかつた。迷つていたのである。

後に発表した随筆に、酒井先生は青木で医院を開業するときに決めた人生の信条を次のように述べている。「私の心は子どもころ祖父森平に可愛がられ教育されたせいもあって、保健福祉の思想はかなり強いと思う。田舎医者となつてもその方面にいくらかでも行動したいのである」「私は生来、人のため世のために

第70回

なる役職に興味を持つていた。田舎で、一介の医者では終わりたくなかつた。

地域社会の医者として地域に貢献する仕事も務めることを人生の信条とする。酒井先生は熟考の末、公民館長を引き受けることを決意した。

昭和25年4月1日付けで酒井先生に非常勤公民館長の辞令が出された。主事には青年の間で信頼のあつた知久五郎さんが就いた。

夜学方式の青年学級や婦人教室の開催・子ども会育成・農村衛生の改善・スポーツの振興・南高根沢文化史の発刊など幅広い活動が始まつた。

(つづく)



▲雪の城興寺(下延生)

□新年あけましておめでとございます。皆さんはどんなお正月をお過ごしでしょうか。除夜の鐘はつきましたか？初詣にはもう行きましたか？お年玉はどうでしょう？
□お年玉といえば、もらう側からあげる側になつて、新たな楽しみを味わえるようになりました。子どもたちに喜んでもらえるのは嬉しいものです。フトコロは寒くなりますが、心は温かくなります。
(K)

編集後記

しまたがしの 芳賀の自然 22



ミドリヒョウモン チョウ目タテハチョウ科

写真提供=芳賀町自然に親しむ会 撮影場所:町内
分布=北海道～九州
生息地=平地から山地(雑木林に多い)
時期=5月～6月(発生:年1回)
食性=各種スミレ
大きさ=開張(羽を広げた最大値)65～70mm
特性=後羽裏面の地色は緑色で3列の銀色の帯がある。雄には前羽表面に3本の黒条がある。

■編集 芳賀町広報聴覚委員会
☎028(677)6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp
■発行 芳賀町企画課
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地
■芳賀町ホームページアドレス
http://www.town.haga.tochigi.jp
④芳賀町の携帯サイトはコチラから➔

